

(別紙4(1))

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370300196		
法人名	社会福祉法人三陸福祉会		
事業所名	認知症高齢者グループホームさんりく		
所在地	岩手県大船渡市三陸町越喜来字所通91番地		
自己評価作成日	平成26年8月23日	評価結果市町村受理日	平成27年1月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigvosvoCd=0370300196-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	(公財)いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号
訪問調査日	平成26年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

震災後、応急仮設住宅内に仮設ホームで事業開始となったが、今年度、平成26年4月1日より、新施設にて事業を開始している。新施設に移動してから、小規模多機能と併設となり、いつでも交流が図れる状態となった。余暇活動や野外活動(ふるさと祭り、小中学校の運動会)や、婦人会のかまもち作りなど、多機能利用者と一緒に活動できる機会が多くなった。また、多機能利用者の中には知人や親戚等もあり、定期的にお会いできることが精神的にも良い環境で生活が送られている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成26年4月より新しい場所に移転した事業所は、南側の高台に立地し、陽当たりや眺望に恵まれている。グループホームと小規模多機能ホーム、特別養護老人ホーム、デイサービス等が廊下やエレベーターで繋がっており、各事業所と連携を図りながら支援に取り組んでいる。近隣との交流では、学校の運動会に利用者が参加したり、地域の人たちとはじめて合同の敬老会を園内の地域災害対策室で行う等、関係を深めるようになっている。また、婦人会の協力をいただいて「かまもち作り」や野菜づくりも一緒に行っている。震災の復興に向けて、法人内の職員で組合を結成し、事業所(施設)の継続に向けて行動するとともに、職員の待遇等も改善されるよう活動し、職場環境が改善されている。職場が明るく、人間関係も良好で、そのことで、サービスの向上につながっている。明るい雰囲気にも包まれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域と共に・その人らしく」を理念に掲げ、ミーティングの際、勤務者で理念を提唱し、不意に「理念は」と問いかけ常に意識し「その人らしく」生活ができるよう考え、実践に繋げていけるよう努めている。	利用者の動きに合わせて平成24年度に理念の見直しを行った。毎日、朝のミーティング時に職員が提唱し、実践に繋げている。時々、理念を問いかけ、応えてもらうことにより意識付けを行っている。理念は、ホールに大文字で書いて掲示されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地元のふるさと祭りや小中学校の運動会等の案内を頂き、参加し交流を図っている。また、婦人会の方々が来園し、一緒に「かまもち作り」をしたりと昔を思い出しながら交流している。今後も、お互いに相談しながら積極的に取り組んでいきたい。	地元の祭りや、小・中学校の運動会に参加している。地元の婦人会と一緒に「かまもち作り」を行ったり、施設(事業所)内の菜園で、老人クラブや婦人会と一緒に野菜づくりにも取り組んでいる。地域と合同で敬老会を災害対策室で行うなど地域の一員となって交流することに努めている。広報は、家族や運営推進委員に配布している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今まで、地域高齢者に役立つ取り組みはしていなかったが、新施設開所に当たり、地域の敬老会を入居者と一緒に当施設にて開催されることとなり、これを機会により良い関係を持ちながら地域高齢者のお役に立てるよう取り組んでいきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新施設に移転後、2か月に1回の運営推進会議は開催しているが、内容については、報告のみに留まっている。今後、内容を考え率直な意見を頂きながらサービスの向上に繋げていきたい。	委員は、警察や消防をはじめ、婦人会、老人会、家族代表、民生児童委員、行政連絡員、歯科医院長、公民館長、市介護センター所長と職員で構成している。2ヶ月ごとに開催し、広報のことや身体拘束、入居者定員、消防署の災害時の対応、そして、地域ではどんなことを協力すればよいか等について協議されている。	会議の内容はホームからの報告が主になっているようである。今後は運営推進会議の運営についても検討し、より委員の方々から意見や助言が頂けるような構成となるよう検討することを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を取ることは余りないが、運営推進会議等で市の担当者の出席もある事から報告が出来ている。また、地域ケア会議での報告をしながら関係作りに努めている。	利用者の認定や各種手続きに関しては、市役所を訪問するなどして利用者の立場で進めている。運営推進会議に出席して頂き、利用者の暮らしを見ていただきながら意見をいただくように努めている。毎月、ケア会議に参加し、更なる協力関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠はせず、自由に出入りできるようにしている。ケアの中でも拘束をしなければいけない入居者もおらず、家族から要望等もない。職員も身体拘束の内容をよく理解できるよう、勉強会を行い拘束しないケアに取り組んでいる。	「身体拘束しないケア」の理解を高めるため、研修会に参加した職員を講師にし、勉強会を開いて拘束のないケアに努めている。マニュアルや「12の鍵」、「高齢者ケアへのタブー(不適切ケア)」等を参考にしている。言葉による拘束については特に注意し合っている。見守りに力を入れ、施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催しながら、身体的虐待のほか、言葉の虐待は、どのような言葉が虐待に当たるのか、常に目を通し、振り返れるように一覧を準備して確認防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、活用する入居者はいないが、今後、学習会の機会を設けながら、職員が学び、家族等にも周知を図っていけるよう努めて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な説明を行い、介護改正等の際も、資料を渡し、不明な点についても明確に回答できるように努め、家族から理解、納得頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時などに意見・要望等を聞くように心がけてはいるが、これまで、家族からの意見等はなく、運営推進会議の中で議題に取り上げる事もなかったが、今後は、家族へアンケートを取ったりしながら意見聴取に努めて行きたい。	家族とは、手紙や電話、訪問時に、話し合いの時間を設けて意見をもらえるように努めている。遠方にいる家族も、時々訪問している。車いす利用や、食事の内容等について意見をいただき改善がされている。各利用者ごとに、一行日誌を記録し、毎月利用者の家族に届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改めて、聞く機会として集まる場面は設けてはいないが、職員間の会話など耳を傾け、必要であれば出来るだけ反映できるよう、上部へ提案するなどしている。	日常の会話を通して、あるいは毎日の申し送りのミーティングの際に、職員から意見や要望を聞いている。重要な内容は、法人に伝え、適切に運営に反映させている。利用者への対応や職員の待遇関係が改善され、職場が明るくなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務体制(勤務表)や業務内容等、職員の意見を聞きながら、出来る限り希望に沿えるよう努めている。日々に健康状態や気づきの部分での声掛けに努め、やりがいを持って仕事に取り組めるようには努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業計画の中の事務分署を職員個々に理解し、研修担当が計画を立てながら、内部研修を実施している。また、新人職員については、研修計画を立て、担当職員が業務に入りながらトレーニングを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会、ブロック定例会の活動の中で、勉強会や研修会など予定されている。参加することで、他法人との交流が出来るようになっているが、なかなか出席できる機会が出来ない状態である。今後、可能な限り取り組んでいきたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入する前段階で、併設する多機能ホームを利用される中での職員との信頼関係作りや、実調時初め、ご自宅を訪問し話を聞き、受け止めながら関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、実調時や契約時に家族からの話をよく聞き、受け止めながら、本人との関係づくりを考えながら信頼関係に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申込みや相談時において、家族や居宅担当者を通じてあるが、その際に、利用者の様子や家庭環境、家族の思いを聞き、グループホームを理解した上で見極めながら契約に至っている。相談を受けながら、入所までの段階で、必要とされるサービスが考えられる場合は支援できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々にその日によって行動や精神状態が異なりますが、時には「姉さん・兄さん・母さん」等になったりしながら、本人の状態・思いを尊重しながら関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回は、家族が「預り金確認票」を持参された際、入居者の所によって頂くようになっており、その際には、日頃の生活の様子など職員と家族の会話の機会もあり、家族との信頼関係を築きながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用していた、理美容室や併設している多機能ホーム利用者の知人としての交流やデイサービス利用者との面会など関係継続に努めている。	入居後も、利用者全員が継続して、かかりつけの理・美容室を利用している。お彼岸には、菩提寺に6名の利用者が行くので、職員が同行している。小規模多機能ホームの利用者に馴染みの方がいるので、面会の場づくりに取り組んでいる。また、ふるさと巡りに出かけるなど、馴染の場所への継続支援に積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間でも気の合う・合わないがあり、食堂の席等の配置を考慮している。自ら他者と交流を望まない方に(一人が良い)対しては、受け止めながら支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設事業も開始され、それに伴って7月、8月と施設入所となった入居者もあり、施設関係者を含み、ご家族との面談初め、あらかじめ、入居者の情報提供する。入所してからも、職員が定期的の様子確認に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者自らが、意思を伝えられる方に関しては、把握は出来ているが、伝えられない方については、職員が関心を持ち把握するように努めて行こうとする思いが足りないように思う。今後の課題と考えている。	常に職員と利用者が一緒に過ごしているので、一人ひとりの思いの多くを汲み取ることが出来ている様子が窺える。できる事やできない事、得手・不得手などを個別ノートに記録し、職員の共有に努めている。思いの把握が困難な方には、表情や行動、家族から聞いて対応しているが、苦慮している部分もうかがえる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	実調の際の聞き取りや、認定調査書の特記事項の内容から把握に努めている。サービスに利用時の経過・日々の入居者の様子については、「一業日誌」を記入の上、家族に日々の暮らしの様子が分かるように努めている。利用者の状態によっては電話での報告に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員は、焦点情報シートを活用し、入居者個々の心身・能力の状態把握に努め、入居者が「出来る事・やりたい事」を得るように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	H26年3月までは、3か月に1回、本人・家族より要望を聞きながら、また「気づきシート」からカンファレンスを開きながらモニタリングや計画の見直しを行ってきているが、4月移転後は、まだカンファレンスやモニタリングの取り組みは出来ていない。	本人や家族には、日頃の関わりの中で、思いや意見を聞いたり、表情や動きをみてケアプラン等に反映させている。「気づきノート」を利用者個々に作成し、食事面、排泄面、入浴面、精神面などに分けて記録しており、職員の意見を参考にしながら現状に即した介護計画作成に努めている。見直しは3ヶ月ごとに行うことを基本にしている。プランは、家族に説明し、確認をいただいている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の暮らしの中で、小さなことでも気づいた事を書き込む「気づきシート」を活用し、職員間の情報を共有しケアプランの見直し等に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに合わせ、家族と相談した上、職員間で話し合い、臨機応変に支援できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	商店街への買い物や病院、理美容室・教育機関等、協働できるように努めている。教育機関とは、震災後より、特に計画的な取り組みを実施されていなかったが、今後、互いに交流できる機会を設けて頂ける内容のお話をいただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者全員が、診療所の医師が主治医となっている。個々に昔から主治医である方が多く、入居者・家族も安心している。定期的に職員が付き添いのもと、受診している。医師とも常に連絡を取れる体制であい職員も安心して支援できている。歯科についても、往診して頂いている。	本人や家族が希望するかかりつけ医に通っており、付き合いも長いことから、安心して受診が行われている。受診や通院には職員が同行し、普段の様子や変化を伝えている。家族には、診察の結果をその日のうちに、報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、日々の生活の中で、入居者の状態を確認し、変化や気づきなど職場内の看護師に報告し、かかりつけ医師への受診や医師との連携を図りながら健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の実績はないが、常に家族や主治医との連携を図りながら支援して行きたい。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時点で、家族の方々とは「看取り」についての説明と同意はいただいている。入居者も高齢となってきた中で、重度化してくることも予測されるため、今後も、家族等と話し合いを持ちながら支援して行きたい。	現在までに2名の方の看取りを行っている。法人の理解のもとに、重度化や終末期に向けた指針が作られており、入居者とその家族に対しては、入居時に指針を説明し、同意をいただいている。本人や家族も最期をここで迎えることを望んでいるので、随時意思を確認しながら、医師とも連携を図り、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の体制については「緊急時連絡体制図」やマニュアルを作成し周知徹底を図っているが、応急手当や初期対応についての訓練の実施はしていない。今後、定期的に訓練して行けるよう努めていく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新施設での、法人全体の防災計画をもとに、グループホーム独自の防災マニュアルの見直しをしている状況である。今後、地域の方々の協力体制の中で、訓練等を実施していく予定である。	新しい場所に移転しており、それに合わせて防災マニュアルの見直しを行っている。防災訓練は、年2回、11月と2月(夜間想定)を予定している。消防署の協力のもとに実施することとしている。地域の協力体制については、運営推進会議で検討することとしている。連絡網や災害に備えての備蓄は準備している。	利用者を安全に避難させることを目標においた訓練が行われることを望みたい。また、地域の方々にも非常時の協力をお願いし、訓練に参加していただくなど、利用者の安全に繋げる取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者個々の性格を理解し、受け止めながら、プライバシーを損ねないように努めている。職員同士が互いの言葉かけに対し、確認し合うような環境に努めている。	入居者個々の性格を理解し、プライバシーを損ねないように言葉かけや誘導に注意しながら支援に取り組んでいる。さりげないケア、同じ目線で話をし、先取りしない等、入浴時や排泄時の対応に特に注意しながら取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	活動への参加など、その時々場面において、個々に働きかけ、自己決定が出来るように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしの中で、「何をしたいか」意思表示ができる利用者は少なく、どうしても職員が決めて活動することが多くなっているが、中には、さまざまに希望される方もおり、その都度、柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の中には、化粧品一式用意してある方もおり、自分で化粧をしたり、定期的に馴染の床屋や美容室に行ったりしている。普段の衣類についても、自ら選んで着脱したり、選択できない利用者については、職員と一緒に選びいつもきれいに着こなしができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症の進行もあり、食事作り等も難しくはなっているが、個々の能力に応じ、もやしの芽取りや食事前のテーブル拭きなど、中には、職員と一緒にキッチンに立ち料理をするなど楽しみながら行っている。	献立は職員が作成している。利用者の好み、冷蔵庫にある食材、昨日の献立と同じものにならない、季節の食材などを考慮しながら食事づくりに取り組んでいる。利用者は、キッチンに立って料理をしたり、もやしのひげ根取り、食器拭きやテーブル拭き等に参加し、楽しんでいる。同じテーブルを囲んで楽しく食事する雰囲気づくりに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	特にカロリー計算はしていないが、野菜・肉・魚など栄養バランスを考えながら提供している。水分補給についても、さまざまな飲み物を準備し、個々に選択できるような取り組みも行っている。提供時には、摂取量の確認や声掛けを行っている。入居者の中には、ミキサー食を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛け・誘導で職員が対応しなければいけない入居者もいるが、中には、入居者自ら口腔ケアを実施している。全介助を必要とされる入居者については、職員が入れ歯洗浄し、ガーゼにて口腔内の拭き取るなど支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、定期的なトイレ誘導や本人の排泄時におこる行動を確認しながら、自立にむけたトイレでの排泄を支援している。	トイレで座って排泄することを目標に取り組んでいる。自分で出来るようになってきている方が5名いる。排泄チェック表を使用しながら、利用者の様子から察知し、その人の身体機能に応じて対応している。夜間、ポータブルトイレを使用している方は1名で、それ以外の方は、トイレの利用をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操を始め、定期的に乳製品の提供、一日の水分摂取量を確認しながら支援している。入居者の中には、下剤が処方されており、指示通りの確実投与を行い、排便有無の確認を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の中には、女性職員希望の方もおり、その都度、本人に聞きながら、日中や夕方と希望に沿って支援している。他の入居者についても、仲良し同士で入りたいとの希望もあり、多機能ホームの広い浴室を使用し、温泉気分が入浴する事もある。課題は多く今後検討していく。	週3回、朝9時から夕方5時半のところ、希望に応じて入浴を楽しんでいただいている。(入浴の)気が進まない時は、清拭や足浴にかえたり、翌日に入浴することになっている。介助については、希望に応じ、同性介助で対応している。仲良し仲間での入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入浴後の、休息を促したり、午後のお昼寝の声掛け、その時々、本人の状態を見ながら、居室での休息や、ソファでの休息に努めている。夜間についても、個々の時間に合わせ、職員と団欒を図り、ゆっくり入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が常に確認できるように、入居者個々の薬事情報を準備している。また、薬の変更は看護師へ報告、職員周知に努めている。日々の状態を観察しながら早期発見に努め、変化時は、看護師に報告し、主治医に相談をするなどしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、個々の能力に合わせ、生き生きと楽しく生活ができ気分転換を図れるよう支援している。(食事作り、掃除、畑の草取りなど)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の中には、外出を好まない方もいますが、その中で床屋だけは昔からの行きつけの所を希望され出かける方もいる。重度の方も、園外散歩をしながら、お花を眺めたり、手で触って見たり刺激ある生活ができるよう支援している。他、その都度希望時は外出の支援をしているが、外出については、地域住民の協力を得るまでには現在はない。	馴染みの床屋さんに出かける人もいる。天気の良い日には、ほとんどの方が散歩に出かけ自然に触れている。花摘みや釜石大観音、夏虫の山等に利用者の希望に応じてドライブに出かけている。買い物にも出かけている。年齢的なこともあり、体調には特に気を付けて対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族より、お小遣いとして現金を預かり事業所にて管理させて頂いている。入居者より、買い物希望時やドライブに出かける際は、預り金を所持し使えるように支援している。家族には、毎月、金銭出納簿や確認書を送付し、確認してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の中では、自ら電話をかけることは無いが、本人から電話してほしいとの訴えがある時は、その都度対応している。手紙となると難しい面があるが、はがきなどを使用しながら家族とのつながりを支援して努めていきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明については、明るくもなく暗くもなく、落ち着いた感じであり、温度についても、冷房・暖房と設備が整っており、職員もその都度、温度や湿度を確認しながら調整している。また、季節感を味わえるよう、掲示板に季節に応じ装飾をしたりと心地よく生活できるよう支援している。	どちらの部屋も明るく静かで、気温や湿度も調整されている。ホールには、紅葉の作品や利用者がかいた書、テレビ、テーブル、ソファなどが置かれ家庭的な雰囲気づくりに取り組んでいる。廊下やトイレ、浴場には手すりが取り付けられ安全に配慮されている。テレビも観たい時に観られるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールには、ソファがあり、気の合った同士で座ってテレビを見たり、廊下奥にも狭い空間ではあるが、そこにソファを置き、掃除しながらちょっと休憩するなど思い思いに過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の方の中には、テレビや自宅で離さず持っていた御人形や、お位牌を持って来ており落ち着いて安心して過ごされている。	テレビ、親の位牌、家族のアルバム、ぬいぐるみ人形等思い出の品々が持ち込まれ、その人らしさが出されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	4月1日より、新施設となったが、入居者の混乱を防ぐために、居室も以前と同じような場所やベットの位置などを配慮しながら対応している。入居者も大きな混乱なく自分の居室を理解し過ごされている。職員も常に環境に目を配り安全・安心に生活できるよう支援している。		